

## 2 黒板・デジタル学習基盤の活用

### 板書・提示をする理由

黒板やプロジェクター、電子黒板等の効果的な活用は、生徒の学びを深めることにつながります。

- ① 学習内容を的確に伝えることができる
- ② 全体像を示すことで、その日の学習の流れが見える
- ③ 授業の記録として後日生徒が見直すことができる
- ④ 生徒の考えを共有し、整理することで学びを深めさせる
- ⑤ 画像やデータなどの提示で、思考を促すことができる

### 黒板・デジタル機器の効果的な使い分け

黒板の利点は、その時間の授業が一覧できる点です。本時の目標や、授業のアウトラインといった、生徒がいつでも確認できた方がよい情報は、画面が次々と変わるデジタル機器による投映よりも、黒板に記載・提示した方が効果的です。

一方、電子黒板などのデジタル機器の利点は、文字等の拡大・縮小が自在である点、生徒に配付したプリントと同じフォーマットが映し出せる点、生徒に提出させた課題をその場で提示してフィードバックできる点などのように、多岐にわたります。

このように、生徒の端末に提示するのか、黒板に記載するのか、電子黒板やプロジェクターで投映するのかによって、見やすさや学習効果が変化します。そのため、課題の提示、意見の集約、整理等の方法について、事前に計画を立て、構造化することが大切です。

#### ☆計画を立てよう

いくら授業内容が良くても、授業中に思いついたことをそのまま板書していても、生徒の学習効果は上がりません。

事前に板書計画を立てることは、計画した授業の流れを生徒目線で点検することにつながります。一単位時間の授業の流れや重要な箇所が生徒に伝わるような板書が理想です。

#### カラーユニバーサルデザイン

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

「カラーユニバーサルデザイン」とは、様々な人の色の見え方に配慮した視覚情報のデザインです。黒板の場合、赤や青のチョークが見えにくい生徒がいます。ピンク系の赤チョークが、白や青と区別しにくいと感じる生徒もいます。赤や青は線や記号等にとどめ、文字には白や黄色を使うと良いでしょう。カラーユニバーサルデザインに対応したチョークもあります。

同様に、プロジェクター等に文字を投映する際も、見え方に配慮して背景色や文字色を選択しましょう。

→ 1章 - 11



## ステップアップ課題

- ① 黒板等の使い方について、校内で統一のルールを設けている学校があります。所属校のルールの有無について、確認しましょう。
- ② 自身の授業後の黒板を撮影し、次の点について分析しましょう。
  - ・ その時間の学びの流れが板書に残っているか。
  - ・ その授業でどのような資質・能力を身に付けさせようとしていたかが伝わる板書になっているか。
- ③ 同僚の授業後の板書を撮影させてもらい、何を意識して板書しているか教わりましょう。
 

特に、「一時的に書くもの」「授業の最後まで残しておくもの」「口頭だけで板書しないもの」の区別について尋ねてみましょう。
- ④ 県立学校に導入された電子黒板の効果的な活用方法について、同僚と情報を共有しましょう。

## 教室の構造化

例えば次の図のように、生徒の思考を全体で共有することで、「個の思考」を「集団の知」へ高めることができます。黒板は、生徒の発言や取組を基に教員が要点をまとめ、体系化して示す場として活用することができます。

電子黒板や端末を「学びの共有装置」と位置付け、生徒の協働的な学びを促進しましょう。



## デジタル学習基盤の活用にあたって

デジタル学習基盤の整備によって、生徒の学習進度に合わせた個別指導や、遠隔地との協働学習など、多様かつ効果的な授業実践が可能になりました。

一方で、端末操作に気を取られて、教室にいる生徒の様子に目が届きにくくなるという弊害も見られます。

学習効果を高めるために用いた教具によって、授業で大切にしたい生徒の見取りができなくなるのであれば、その教具の使用は適切とは言えません。

活用にあたっては、資質・能力の育成に対して効果的であるかを考え、使用目的や使用場面を十分検討しましょう。

## 「書く」場面も忘れずに

グループ活動が増えると、ノートや端末に記録を取らせる時間の確保が難しくなることがあるかと思えます。けれども、「書く」ことで思考を広げたり、自身の思いをまとめたりする力は、学校教育を通して生徒に身に付けさせておきたい言語活用能力の一つです。

ノートや端末に、黒板やプロジェクター等に示された語句を書き写すだけでなく、生徒の考えや友達の意見を書き添えたり、後で資料を調べて追記したりという活動を、計画的に組み込みましょう。